

内分泌代謝科専門医研修ネットワークプログラム

1 はじめに

内分泌代謝科は生活習慣病の代表である糖尿病、脂質代謝異常や甲状腺、下垂体、副腎などの様々なホルモン異常を治療対象としています。

糖尿病は世界的に患者数が増加しており、適切に加療しなければ様々な合併症を引き起こし生命予後やQOLを大きく損ないます。糖尿病治療薬の開発は最近の数年間で飛躍的に進み、様々な作用機序の新薬が登場しています。患者さんの病態に合わせて最適な治療薬の選択を考える必要があります。

内分泌疾患は症状や身体所見から病気を疑って的確に診断しホルモンのコントロールをつければ患者さんの悩んでいた症状をピタリとおさえることができます。疾患の特徴をとらえ、いかにして患者さんを見つけ出すかが専門医の腕の見せ所となります。

静岡県内には内分泌代謝科専門医が不足しており、専門医不在の病院が少なくありません。本プログラムを通じて専門的な知識と技量を定着させ、第一線で活躍できる内分泌代謝科・糖尿病専門医を目指してほしいと思います。

プログラムリーダー 浜松医科大学医学部 内科学第二講座 講師 佐々木茂和



2 目的

この静岡県版プログラムは初期臨床研修を終えた医師を対象にしており、その目的は

- (1) 優れた内分泌代謝科専門医ならびに糖尿病専門医を養成すること、
- (2) 静岡県外でも推薦状等により国内の医療施設での活躍の場を確保すること、
- (3) 静岡県民が県内のどこにおいても糖尿病および内分泌代謝疾患に関する専門的な医療を受けられるようにすること、である。

3 目標

本プログラムは日本内分泌学会専門医制度(http://square.umin.ac.jp/endocrine/senmon_i/)ならびに日本糖尿病学会専門医制度(<http://www.jds.or.jp/modules/specialist/>)に準じたカリキュラムで行う。

60ヶ月間に経験すべき症例および習得すべき技術・手技の最低限の目標数を下記に示す。

- (1) 間脳下垂体疾患 4例以上
- (2) 甲状腺疾患 7例以上
- (3) 副甲状腺疾患及びカルシウム代謝異常 3例以上
- (4) 副腎疾患 4例以上
- (5) 性腺疾患 1例以上
- (6) 糖尿病（膵関連疾患含む）50例以上（①～⑤の症例をそれぞれ最低1症例は経験すること）
 - ①糖尿病性ケトアシドーシスまたは高浸透圧性昏睡、
 - ②若年1型糖尿病、
 - ③妊娠を伴う症例、
 - ④腎症(Cre4.0mg/dL以上)合併例、
 - ⑤視力障害を伴う網膜症合併例
- (7) 脂質異常症 3例以上

- (8) 肥満症 3 例以上
- (9) 甲状腺エコー 30 件以上
- (10) 甲状腺吸引細胞診(FNAB) 5 件以上

上記カリキュラムに定められたものの他に、医療倫理、医療安全、感染対策、EBM の実施、ガイドラインに関する研修も行う。

研修 5 年目までに日本内分泌学会内分泌代謝専門医（内科）ならびに日本糖尿病学会糖尿病専門医の受験資格取得を目標とする。

4 特徴

本プログラムの研修期間は 60 ヶ月である。下記に述べる特徴ある研修基幹病院を 2 か所以上ローテーションする全県下型教育支援プログラムである。

5 研修カリキュラム

- (1) プログラムにおける研修・勤務期間は 5 年（60 ヶ月）
 - 2～3 年毎に最低 2 つの研修基幹病院をローテーションし研修を行う。
- (2) 研修基幹病院での専修医用研修プログラムの実行：
 - 1) 上記最低症例数の経験を含んだ研修カリキュラムに沿って研修を行う。
 - 2) 研修期間中には、その後の専門医としての技術・知識を高める基礎を築くため、専修医の希望により循環器内科、消化器内科、呼吸器内科、救急科など他科の短期ローテートが可能である。その際も上記内分泌代謝科研修内容の目標は変わらず、ローテート後に研修カリキュラムに沿って研修を行う。

6 研修例

プログラムにおける研修・勤務期間は 5 年（60 ヶ月）
2～3 年毎に最低 2 カ所の研修基幹病院をローテーションする。

研修スケジュール・キャリア形成の例

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
1. 2年目	研修開始 → A病院(基礎技術の研修、学会参加、2年目に内科認定医の取得をめざす)											
3～5年目	B病院(基礎技術洗練、更なる症例の経験、5年目までに専門医資格の取得) → 研修終了											

7 研修病院群

2015-2016年 研修指定基幹病院とプログラム責任者

- | | | |
|---|---------------|---------------|
| ① | 浜松医科大学医学部附属病院 | (講師・科長 佐々木茂和) |
| ② | 聖隷浜松病院 | (部長 柏原裕美子) |
| ③ | 浜松医療センター | (科長 長山浩士) |
| ④ | JA 静岡厚生連遠州病院 | (部長 後藤良重) |
| ⑤ | 磐田市立総合病院 | (部長 川合弘太郎) |
| ⑥ | 静岡赤十字病院 | (部長 村上雅子) |
| ⑦ | 浜松労災病院 | (部長 大石裕子) |
| ⑧ | 聖隷三方原病院 | (部長 岩渕昌康) |
| ⑨ | 市立島田市民病院 | (医長 林 千雅) |

① 浜松医科大学附属病院内科学第二講座（内分泌代謝科）

研修指導医



講師・科長 佐々木茂和

所属学会： 日本内科学会，日本内分泌学会，日本糖尿病学会，日本甲状腺学会，
日本神経内分泌学会，日本内分泌病理学会，米国内分泌学会，米国糖尿病学会

資格：日本内科学会認定医，日本内分泌学会専門医・指導医，日本糖尿病学会専門医・指導医

学会役員： 日本内分泌学会評議員，日本糖尿病学会評議員，日本神経内分泌学会理事，
日本甲状腺学会評議員

【病院紹介】

三方原台地の東南の端にあたる半田山に建つ浜松医科大学附属病院は、改築により病棟も外来棟もきれいに生まれ変わり、快適度が増しました。病棟からの眺望はなかなかのもので、浜松市街を一望することができます。

当院は県内を中心に周辺市町村から多くの内分泌疾患症例が紹介受診されます。入院患者数は年間 250-300 人で、下垂体腫瘍、下垂体機能低下症、SIADH、尿崩症、末端肥大症、クッシング症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫、バセドウ病眼症など、主だった内分泌疾患のほとんどを経験することができます。原発性アルドステロン症に対しては放射線科の協力のもと年間 30-40 件の副腎静脈サンプリングを施行しており、全国的にもトップレベルの症例数となっています。糖尿病治療に関しては経皮的持続血糖モニタリング (CGM) を積極的に使用して 1 日の血糖変動を把握し、薬剤の選択、薬剤量の調整に活用しています。また妊娠糖尿病の専門外来を設置しており、産婦人科との連携で妊娠中の耐糖能障害をピックアップし、必要症例にはインスリン導入して血糖管

理を行っています。入院症例はすべて毎週火曜日に行われるカンファレンスで1例ずつ詳細に検討し、診断・治療方針の決定を行っています。

関連病院の先生方と年間4回定期的に症例検討会を開催しており、診断・治療が困難であった症例、希少な症例など興味深い症例に関するディスカッションを行っています。

大学病院という特性から、下垂体・副腎疾患をはじめ、症例は豊富であり、診断にかかせない内分泌負荷試験の手技も短期間で身に着けることができます。内分泌代謝専門医を目指す若手医師の参加を歓迎します。

浜松医科大学内分泌代謝科 HP→<http://hamamatsu-endo.com>

② 聖隷浜松病院

研修指導医



内分泌内科部長 柏原裕美子 1997年卒

所属学会：日本内科学会、日本糖尿病学会、日本甲状腺学会、日本内分泌学会

資格：日本内科学会総合内科専門医

日本糖尿病学会専門医

日本内分泌学会内分泌代謝科専門医・指導医、

日本甲状腺学会専門医

【病院紹介】

近隣診療所や、院内の他科から多彩な多くの患者さんをご紹介いただき診療しています（入院約350例/年、外来約2,700例/年）。スタッフは3～5名で和気あいあいとやっています。診療所の先生方との症例検討会をしたり、診療所で治療中の患者さんに当院の糖尿病教室や短期教育入院にご参加いただくなど診療所との連携に力を入れています。また、糖尿病療養指導にとって不可欠なコメディカルとのチーム医療に関して質の高い診療をめざしています。

診療内容

① 糖尿病診療

- ・当科入院患者について多職種と連携して患者教育・治療
- ・他科入院中患者の手術前後やシックデイの血糖コントロール

② 甲状腺疾患

- ・エコー検査、穿刺吸引細胞診を実践

③ 下垂体・副腎疾患

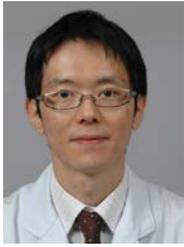
- ・術前・術後の負荷試験の検査計画、検査の実施、結果の評価など

*希望があれば院内他科への短期研修も可能です。

聖隷浜松病院内分泌内科 HP→<https://www.seirei.or.jp/hamamatsu/section/159.html>

③ 浜松医療センター

研修指導医



科長 長山浩士

1998年 浜松医科大学卒

医学博士

資格： 日本内科学会総合内科専門医
日本糖尿病学会専門医・指導医
日本内分泌学会専門医・指導医
日本甲状腺学会専門医

【病院紹介】

当院内分泌代謝内科には常勤医師1名に、専修医2名を加え3名で外来・入院診療を運営し、またそれと平行してローテートする研修医1名の指導を行っています。当科入院患者は糖尿病教育入院を中心に年間250名程度、外来は1日平均60名程度です。また当院は総合病院で各診療科が充実しているため、他疾患で入院中の糖尿病患者のコンサルテーションが多いのも特徴です。

糖尿病については、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、検査技師、歯科衛生士と様々な職種と協力して、糖尿病教室をおこない、週1回のチームカンファレンスで教育入院患者情報を共有します。病棟看護師3名、外来看護師1名、理学療法士2名が糖尿病療養指導士を取得しており、コメディカルも熱心に糖尿病診療に携わっています。糖尿病は様々な合併症を引き起こしますが、当院は眼科、腎臓内科、循環器内科、神経内科、脳神経外科など糖尿病の合併症管理にかかせない科がそろっているため、患者さんにとっても、また診療、研修する側にとっても恵まれた環境にあります。またインスリンポンプ療法の患者も6名おり、外来では血糖自己測定器使用者全員の記録を非接触型ICカード経由で電子カルテに取り込み正確な値を評価しています。常に最新の医療を提供できるように努力しています。

甲状腺疾患で入院を必要とする患者は少数ですが、外来ではバセドウ病、橋本病、結節性甲状腺腫など多くの症例を経験します。毎週甲状腺エコーを行い、必要あればエコー下に穿刺吸引細胞診を行います。甲状腺エコーと細胞診の手技習得が可能です。手術が必要な場合は当院耳鼻科と連携します。当院では甲状腺癌とバセドウ病の外来アイソトープ治療も可能です。

下垂体副腎疾患は、症例数は多くありませんが、広い地域からの紹介等で、原発性アルドステロン症や、褐色細胞腫、クッシング症候群、SIADH、中枢性尿崩症など様々な疾患を経験することが出来ます。毎週木曜日の内分泌カンファレンスには浜松医大から沖隆先生に参加していただき、当院で経験の少ない稀少疾患についても適切にアドバイスを頂きながら、浜松医大と連携をとってレベルの高い診療が提供できるのも特徴です。

当院は糖尿病学会と内分泌学会の認定教育施設、甲状腺学会の認定専門医施設になっており、専

門医研修をする下地も整っています。経験できる症例も多いため、専門医取得のために必要な学会発表も短期間にクリアできることと思います。

浜松医療センター内分泌代謝内科 HP→<http://www.hmedc.or.jp/guide/department/dep015.php>

④ JA 静岡厚生連遠州病院

研修指導医



内分泌代謝内科 科長 後藤良重 1987 年卒

1987. : 浜松医科大学附属病院第3内科入局、研修、免疫グループ所属

1996. : 浜松医科大学医学部大学院医学科博士課程修了 医学博士

1996. 4~ : 静岡県厚生連遠州総合病院内科内分泌グループ勤務

2006. 9~ : 糖尿病のより良い連携医療を目指す会幹事

2009. 4~ : 静岡県西部糖尿病療養指導研究会世話人

所属学会 : 日本内科学会 日本糖尿病学会 日本内分泌学会 日本甲状腺学会

日本リウマチ学会 日本シェーグレン学会

【病院紹介】

当院内分泌代謝内科は常勤医師2名と、非常勤医師2名でしたが、平成26年度からは常勤女性医師3名で外来・入院診療を運営して参ります。これまでは、当院基幹型、及び浜松医科大学からの各コースの研修医を月1名ずつ受け入れて、主に初期研修を指導してきました。

外来: 平日、毎日一枠は、内分泌外来を設けています。国民病とも言える糖尿病が大変を占めます。血糖自己測定器使用者全員の記録を電子カルテに取り込んで、日内変動等を患者さんにもわかりやすく表示し、双方がともに考えて納得できる治療ができる体制にしています。次に多い甲状腺疾患、そのほか下垂体、副甲状腺、副腎疾患も診ています。甲状腺疾患については、木曜、金曜の午後に甲状腺エコー外来を行っています。こちらでは甲状腺結節性病変の吸引細胞診も行っており、近医からの細胞診目的のご紹介も受けています。従って、甲状腺エコーと細胞診の手技習得が可能です。副甲状腺結節の場合もあり、RI検査を併用して診断しています。甲状腺癌、副甲状腺結節性病変の手術については当院外科、耳鼻科、又は丸山病院外科に依頼しています。

入院: 糖尿病教育入院が中心ですが、腎症悪化例、高齢者や、外来血糖コントロール困難例の安全な治療薬調整を行っています。ケトアシドーシス、低血糖、甲状腺クリーゼ等の緊急入院も診ています。甲状腺のアイソトープ治療は、主に浜松医科大学放射線科に依頼しています。また当科は他疾患で他科入院中の糖尿病患者や、電解質異常のコンサルテーションが多いのも特徴です。その中には、糖尿病だけでなく、副甲状腺機能異常による血清Ca異常、術後のSIADH、副腎機能異常等も含まれます。副腎の結節性病変の手術は当院泌尿器科に依頼しています。

糖尿病への取り組み：糖尿病教室は、外科医師、眼科医師、歯科医師、看護師、薬剤師、栄養士、理学療法士、検査技師と協力して、月 10 回の糖尿病教室を行っており、入院、外来、紹介患者の参加を受け入れています。当科の特徴の一つは、糖尿病患者の食生活改善につなげるため糖尿病料理教室を 15 年間継続している点です。食事療法は糖尿病治療において最も重要な治療であり、最も困難な点であるため、重視しています。

週 1 回のチームカンファレンスで入院患者について治療方針の話し合いをします。病棟看護師 3 名、栄養士 3 名、薬剤師 2 名、検査技師 1 名、理学療法士 2 名が日本糖尿病療養指導士を取得しています。そのメンバーを中心に、病院長直属の糖尿病療養指導委員会を設けて、院内全体として糖尿病治療を行き渡らせようとしています。

腎機能が低下し始めた患者の生活サポートも含めた週 1 回の透析予防外来にも力を入れており、療養指導士の看護師、栄養士の生活指導とともに外来を行っています。

糖尿病は様々な合併症を引き起こしますが、当院は眼科、循環器内科、神経内科、脳神経外科など糖尿病の合併症管理に必要な科との連携も非常にスムーズなため、スピーディーな治療が行える環境です。

院外活動：1. CKD 予防のための減塩低カロリープロジェクトを、当院循環器内科と協力して院内のみならず、医師会、行政とともに展開し、年 1 回のイベントを行っています。

2. 地域の医院との連携を深めて、地域全体の糖尿病医療レベルを向上すべく、年 3 回の糖尿病治療勉強会では各施設の経験症例の提示や、全国的に著明な糖尿病専門医の方々を招いての少人数に対する講演をいただいています。

3. 静岡県西部糖尿病療養指導研究会で、糖尿病療養指導士の育成にあたっています。

4. 毎年、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、日本甲状腺学会に、参加、研究発表を行っており、研修中の発表も奨励、指導しています。

臨床研究：数年に渡ってインスリン療法におけるインスリン抗体や、2 型糖尿病患者のグルカゴン分泌の治療法別経時的変化等を測定し、よりオーダーメイドな糖尿病治療に生かす様に心がけています。

遠州病院内分泌代謝内科 HP→<http://www.ja-shizuoka.or.jp/k-enshu/shinryoka/naibunpitu>.

⑤ 磐田市立総合病院

研修指導医



糖尿病・内分泌内科部長 川合 弘太郎 1997 年卒

資格： 日本糖尿病学会専門医・研修指導医

日本内分泌学会内分泌代謝科専門医・指導医

日本内科学会認定内科医・総合内科専門医

【病院紹介】

当院は、病床数 500 床の地域の中核病院です。糖尿病・内分泌内科は、日本糖尿病学会、日本内分泌学会により認定された糖尿病、内分泌代謝指導医、専門医が複数在籍しており、当院の内分泌代謝疾患診療の指導的な立場にあります。経験豊かなスタッフのもと、ハイレベルな研修が可能です。日本糖尿病学会、日本内分泌学会の教育認定施設でもあるため、糖尿病専門医、内分泌代謝科専門医を目指すこともできます。

当科は中東遠地域における糖尿病・内分泌疾患の数少ない専門施設の一つであり、広範囲から患者さんが来院されるため、糖尿病はもちろん、甲状腺疾患や下垂体疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患など様々な疾患を数多く経験することが可能です。当院には数多くの専門科があり、各診療科同士の協力体制が確立されているため、患者さんに関連する合併症が生じた場合でも速やかに専門科コンサルトがしやすい体制であることも特徴であると思います。

平日や当番日は、豊富な症例をどんどん経験していただくため、多忙かつ充実した時間を過ごしていただくこととなりますが、夜間、休日に関しては当番制をとっており、非番日については拘束されないことを原則としています。

卒後数年間の臨床研修の時期はその後の医師としての人生が充実した者になるかにおいて、最も大切な時期です。ドクターにとっては、どこの大学を卒業したかではなく、どこで臨床研修を受けたかが重要であると言っても良いと思います。興味深い症例を数多く経験していただくことにより、専門医として成長していく大きな手助けになることができればと思います。

実りある研修を受けたいという意欲のあるドクターをお待ちしています。

磐田市立総合病院糖尿病・内分泌内科 HP

→<http://www.hospital.iwata.shizuoka.jp/patient/department/naika-naibunpitu/index.htm>

⑥ 静岡赤十字病院

研修指導医

糖尿病 内分泌・代謝科 部長 村上 雅子

資格： 日本内科学会認定医・指導医

日本糖尿病学会認定専門医・研修指導医

日本内分泌学会認定専門医・指導医

【病院紹介】

当院は昭和 8 年創立、JR 静岡駅から徒歩圏内にある、病床数 500 床、一日平均外来患者数 1700 人、医師約 150 名を有する総合病院です。内科学会認定内科専門医教育指定病院であるほか、多くの subspeciality でも各学会認定医研修施設、教育指定病院、認定医指定施設となっており、静岡市内の主な病院の 1 つとして市内外の地域高度医療・専門医療・救急医療を担っております。このため県内外から、大学の枠を超えた多数の臨床研修医師が当院での研修を希望して参集し、病院も研修医師の研修希望内容にも沿える柔軟性のあるプログラムを考え、研修に積極的な若い医師が、豊富な臨床経験と研鑽を積む事が出来る体勢を用意しております。

平成 21 年度の糖尿病で診療通院患者は約 1640 人、うち 1 型糖尿病 56 名、インスリン療法は 850 人、平成 21 年度の入院患者数は 2 型糖尿病 190 人（うち 1 型糖尿病 46 人）でした。また約 8 人の各職種の糖尿病療養指導士が活躍し、チーム医療体制が充実していて糖尿病患者の入院外来診療場面で継続的な患者

ケアをしています。当院は内分泌学会指定研修施設でもあり、多くの紹介例を含む内分泌疾患を診ていることも特徴です。平成21年度のバセドウ病の外来診療患者156名(RI治療例18名)、慢性甲状腺炎395名、経皮的エタノール注入療法(PETI)49名、下垂体腫瘍94名、副腎腫瘍64名と豊富です。脳外科での下垂体近傍腫瘍の手術は年間平均10例前後にのぼり、内分泌内科の初診症例の診断と初回治療を豊富に経験することができます。入院患者診療では、初期研修医と共に受け持ち、初期研修医の指導にも当たります。外来診療では、救急外来診療も担当し各科専門医の指導のもとで総合的な臨床力を身につける事が出来ます。内科初診外来担当の他、再診外来では受け持ち患者さんの経過を診る機会もあり、希望によって他の診療科も組み合わせた研修も可能です。同時に豊富な症例をもとに、臨床研究を行い、地方会をはじめ各種学会発表も積極的に行ない、市内外や県下の多くの講演会、研究会での発表、参加が日常的に可能な環境です。

卒後数年間の臨床研修の時期に、どのような医療環境で臨床研修を積んだか、すなわち、いかに積極的な研修医師達と共に、複数科の専門医師層の厚い指導下で、いかに豊富な臨床症例を経験できるか、は大変重要と思われます。大学卒業前には決める事が出来なかった、その後どのような医師ないしは医学者として、どのような専門分野に進んで研鑽を積み、どのような形で医師として社会に貢献、活躍していけるのかを、決めていく大切な時期と考えられます。当院は、糖尿病・内分泌分野においても、日常疾患から比較的珍しい疾患に至るまで豊富幅広く診療する事ができる院内外の環境が揃っています。院内の診療体勢は、大学病院などに比べると、実際に研修医師諸氏が受け持つ機会も数も豊富で、各専門科間の垣根も低く、興味深い症例を数多く実際に自ら経験していただくことにより、専門医として成長していくステップなるものと思います。実りある研修を受けたいという意欲のあるドクターをお待ちしています。

静岡赤十字病院糖尿病・内分泌代謝科 HP

→<https://www.shizuoka-med.jrc.or.jp/section/diagnosis/endocrinology.html>

⑦ 独立行政法人労働者健康福祉機構 浜松労災病院

研修指導医



内分泌代謝内科 診療部長 大石 裕子 1991年卒

所属学会：日本内科学会、日本糖尿病学会、日本内分泌代謝学会、
日本リハビリテーション学会、

資格：日本糖尿病学会糖尿病専門医
日本糖尿病学会研修指導医
日本内科学会認定内科医
日本内分泌学会内分泌代謝科専門医

【病院紹介】

当院は昭和 42 年に創設され、当初は労働災害による負傷や増加しつつある職業病に対して専門的治療を提供することが目標でした。平成 22 年 4 月に改築し、地上 6 階の新病院としてスタートしました。病院名から、労災疾患に偏っている、というイメージを持たれがちですが、実際には 2 次救急を担う急性期病院として地域の拠点病院となっています。平成 24 年度実績では救急車搬送患者 3,650 件を受け入れ、外科系の緊急手術 415 件、内科系（循環器内科、脳血管内治療など）81 件に対処しました。当科においても糖尿病系の救急症例である、糖尿病性ケトアシドーシス、高浸透圧高血糖症候群などにも対処しています。

内分泌代謝内科は現時点では指導医 1 名ですが、糖尿病療士資格を有する管理栄養士、薬剤師、看護師、および臨床検査技師、運動療法士スタッフによる合計 10 名で糖尿病患者教育に携わるチームを作成し、糖尿病患者教育および患者啓発にあたっています。症例の多くは糖尿病ですが、近隣の医療機関より甲状腺腫の症例も多数紹介を受け、当科外来にてエコーガイド下穿刺細胞診も行います。また、副腎疾患の症例も稀ではなく、当院泌尿器科との連携で、腹腔鏡下患側副腎摘出術などから病理組織診断などにも対応出来ています。近隣開業医療機関との間での定期的な講習会も当院主催で 3 ヶ月毎に行っており、その親交のおかげで、糖尿病患者のみならず、甲状腺疾患、二次生高血圧などの内分泌疾患を広く御紹介いただき、年々患者数が増加（平成 24 年度の延べ外来患者数は 4,218 件、入院患者数は 2,581 件）しています。当院の健診科とも連携し、早期から耐糖能異常に対し、糖尿病合併症への進展阻止を目指しています。

地域医療に貢献する観点からは、毎年 11 月 14 日の世界糖尿病デーには、近隣一般の方を対象に糖尿病啓発セミナーを開催し、好評を得ています。

また、当院は外科系医療が充実しており、糖尿病合併症例での、周術期血糖管理も多数相談を受けます。特に糖尿病専門医の習得を目指す医師にとって、多くの症例を経験する事ができると思います。規模的にも 312 床の当院では他科との連携も良好で、各科とも自由に相談し合っています。当方は 1 名体制ではありますが、他科医に助けられて働きやすい職場となっています。

【特色】

- ・ 幅広い内分泌代謝疾患の専門診療および手技の習得が出来る。
- ・ 学会発表・学会参加には病院から参加費・宿泊費・交通費が支給される。
- ・ 学会への積極的な参加を支援します。
- ・ 病院から至近距離の官舎は清潔で十分な広さ、利用料も格安です。
- ・ 病院内に保育園があり、育児中の研修も可能。
- ・ 希望者には全国労災病院間での内科他科でのローテーション研修も可能。

浜松労災病院内分泌代謝内科 HP

→<http://www.hamamatsuh.rofuku.go.jp/raiin/bumon/01naibunpitaisyanaiika/01naibunpi.html>

⑧ 聖隷三方原病院

研修指導医



内分泌代謝科部長 岩渕昌康 1990年卒
所属学会・資格： 日本内科学会認定医・専門医
日本内分泌学会専門医・指導医
日本糖尿病学会専門医
全米内分泌学会会員
全米糖尿病学会会員

【病院紹介】

当院は浜松市北区に位置しています。

糖尿病の診療が中心です。

【特色】

- ・ 標準的医療を安全に供給することを目標としています。
- ・ 他科の先生方にお世話になることが多いのでコンサルテーションスキルの習得が重要です。

聖隷三方原病院内分泌代謝科

HP→<http://www.seirei.or.jp/mikatahara/medical/486.html>

⑨ 市立島田市民病院

研修指導医



糖尿病・内分泌内科 主任医長 林 千雅 1999年卒

所属学会：日本内科学会、日本内分泌学会、日本糖尿病学会、

資格：日本内科学会総合専門医

日本内分泌学会専門医

日本糖尿病学会専門医（暫定指導医）

【病院紹介】

市立島田市民病院の糖尿病・内分泌内科は、日本糖尿病学会、日本内分泌学会により認定された糖尿病、内分泌代謝専門医1人と専門医を目指す医師3人で構成されています。また糖尿病療養指導士10人を擁し、経験豊かなスタッフとともにチーム医療をおこなっています。志太榛原医療圏では40万人の人口に対して糖尿病・内分泌疾患で入院が可能な施設は当院だけです。このため豊富な症例を経験できることも特徴です。平成25年度入院実績は糖尿病入院患者127人、外来では初診患者数303人、外来再診患者数2066人となっています。糖尿病診療に関しては持続皮下インスリン注入療法、CGMによる血糖評価や妊娠糖尿病に対する診療なども行っています。産婦人科との連携で妊娠糖尿病の管理、外科系との連携で周術期の血糖管理なども行っています。内分泌診療では甲状腺クリーゼ、副腎クリーゼなどの緊急疾患を含め、下垂体・副腎・甲状腺疾患の診療・内分泌負荷試験などを行っています。また定期的に浜松医科大学内分泌代謝内科にて症例検討会を行っており、国内でもご高名な先生方からご教授いただく機会にも恵まれています。

当院は、糖尿病・内分泌疾患の患者さんを近隣医療機関から多数ご紹介頂く環境にあります。興味深い症例を数多く経験していただくことにより、糖尿病・内分泌内科医として十分な経験を積むことが出来ると思います。また若いスタッフで構成されているため、みんなで協力し、時には浜松医科大学内分泌代謝内科の先生方に相談して診療にあたっています。

平日や当番日は、豊富な症例をどんどん経験していただくため、多忙かつ充実した時間を過ごしていただくこととなりますが、夜間、休日に関しては当番制をとっており、非番日については拘束されないことを原則としています。また学会参加に関しても積極的にサポートしております。

実りある研修を受けたいという意欲のある先生方をお待ちしています。

市立島田市民病院 HP

→<http://www.municipal-hospital.shimada.shizuoka.jp/>

8 各病院の症例数

上記7を参照してください。

9 研修期間

研修・勤務期間は5年（60ヶ月）とする。

10 プログラム参加の要件

このプログラムを有効に活用するため、参加者は2年間の初期臨床研修期間中にプライマリーケアの理解および全身管理の技術を習得していることが必要である。

またプログラム参加に先立ち、日本内分泌学会ならびに日本糖尿病学会に所属することが望ましい。

11 処遇

- (1) 身分：原則常勤（研修病院の都合により非常勤扱いになることもある）。
- (2) 給与：各病院の給与体系に従う。

12 プログラム修了後の進路

- (1) 5年間の研修期間終了とともにプログラム上の雇用関係は解消される。
- (2) プログラム終了後の就職先の選定は個人の自由であるが、県内病院に就職を希望する場合の就職相談にも応じる。
- (3) 研修基幹病院には大学も含まれており、臨床研究、基礎研究、学位取得および海外留学などの相談にも応じる。

13 プログラム運営委員会

本プログラムの管理は、静岡県内分泌代謝専修医管理委員会が行う。

14 その他

プログラム参加者の定員：研修の効果を上げるために3人とする。